

令和元年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

議 事 次 第

日時：令和2年2月13日（木）13:30～15:30

場所：あかん湖鶴雅ウイングス 大広間「ポロサケ」

1. 開会

2. 議題

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱の改正について

(2) 報告事項

1. 国立公園満喫プロジェクトに関する令和2（2020）年度予算について（環境省）
2. 阿寒摩周国立公園におけるトレイルネットワークの形成について（環境省）
3. アドベンチャートラベルの推進について（北海道）
4. 観光立国ショーケースの取組状況について（釧路市）
5. 「交通シームレス化調査事業」及び「持続可能な観光推進事業」について（北海道運輸局）
6. 東京2020オリンピック競技大会札幌開催に合わせた自然公園の利用促進に向けた取組について（北海道）

(3) 協議事項

1. 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト2019年までの取組状況」の取りまとめ
2. 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト令和3（2021）年度以降の取組継続について

(4) その他

3. 閉会

【配付資料一覧】

議事次第

出席者一覧・配席図

資料 1 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱（改正案）

資料 2 - 1 令和 2 年度国立公園満喫プロジェクト関連予算

資料 2 - 2 - 1 阿寒摩周国立公園におけるトレイルネットワークの形成について

資料 2 - 2 - 2 阿寒摩周国立公園トレイル整備・維持管理ガイドライン（案）一部抜粋

資料 2 - 2 - 3 阿寒摩周国立公園トレイルネットワーク構想（案）一部抜粋

資料 2 - 3 アドベンチャートラベルの推進について

資料 2 - 4 観光立国ショーケースの取組状況について

資料 2 - 5 「交通シームレス化調査事業」及び「持続可能な観光推進事業」について

資料 2 - 6 東京 2020 オリンピック競技大会札幌開催に合わせた自然公園の利用促進に向けた取組について

資料 3 - 1 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019 年までの取組状況

資料 3 - 2 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト令和 3（2021）年度以降の取組継続について

資料 4 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会令和元年度開催状況および今後の予定

参考資料 1 国立公園満喫プロジェクトの 2021 年以降の取組の方向性検討について
（有識者会議資料）

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会 設置要綱**(目的)**

第1条 国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを阿寒摩周国立公園において推進するための具体的なプログラム（以下「ステップアッププログラム 2020」という。）を策定し、実施していくことを目的に、関係機関の相互の連携を図るため、阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議事項)

第2条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。

- (1) 阿寒摩周国立公園における国立公園満喫プロジェクトの推進に関する事項。
- (2) 「ステップアッププログラム 2020」の策定及び実施に関する事項。
- (3) その他、第2条の目的を達成するために必要と認められる事項。

(構成員)

第3条 協議会は、別表1に掲げる関係機関等をもって構成する。

2 協議会は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて事務局が招集する。

2 議事は、事務局において進行する。

(阿寒地域部会及び摩周地域部会)

第5条 阿寒摩周国立公園の地域ごとの具体的な事項を検討するため、阿寒地域部会及び摩周地域部会を設置する。

- 2 阿寒地域部会及び摩周地域部会は、それぞれ別表2-1及び別表2-2に掲げる者で組織する。
- 3 阿寒地域部会及び摩周地域部会では、それぞれの地域における「ステップアッププログラム 2020」の検討及び推進に関する事項を所掌する。

(事務局)

第6条 協議会及び各地域部会の事務局は、それぞれ以下に置く。

- (1) 協議会 北海道環境生活部及び環境省阿寒摩周国立公園管理事務所
- (2) 阿寒地域部会 北海道釧路総合振興局及び環境省阿寒摩周国立公園管理事務所
- (3) 摩周地域部会 北海道釧路総合振興局及び環境省阿寒摩周国立公園管理事務所

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成28年9月13日から施行する。

附 則 この要綱は、平成30年3月30日から施行する。

附 則 この要綱は、平成31年1月18日から施行する。

附 則 この要綱は、令和 年 月 日から施行する。

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成員

団 体 名	職 名
環境省釧路自然環境事務所	所長
国土交通省北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課長
国土交通省北海道開発局	釧路開発建設部長
国土交通省北海道運輸局	観光部長
林野庁北海道森林管理局	計画保全部長
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部長
北海道釧路総合振興局	局長
北海道環境生活部環境局	生物多様性担当局長
北海道経済部観光局	誘客担当局長
釧路市	市長
美幌町	町長
津別町	町長
清里町	町長
小清水町	町長
大空町	町長
足寄町	町長
標茶町	町長
弟子屈町	町長
白糠町	町長
中標津町	町長
(公社)北海道観光振興機構	会長
阿寒摩周国立公園広域観光協議会	会長
(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構	理事長
(一社)摩周湖観光協会	会長
(一財)前田一步園財団	理事長
(一財)自然公園財団阿寒湖支部	所長
(一財)自然公園財団川湯支部	所長

阿寒地域部会構成員

団 体 名	職 名
環境省阿寒摩周国立公園管理事務所	所長
国土交通省北海道開発局	開発連携推進課 開発企画官
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長
国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局	首席運輸企画専門官
林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署	署長
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部 食・観光産業課 参事官
北海道釧路総合振興局	くらし・子育て担当部長
北海道釧路総合振興局	産業振興部長
北海道十勝総合振興局	保健環境部 環境生活課長
北海道環境生活部環境局	生物多様性保全課 自然公園担当課長
釧路市産業振興部	観光振興監
釧路市総合政策部都市計画課	課長
足寄町経済課	課長
白糠町経済課	課長
(公社)北海道観光振興機構	観光開発支援グループ次長
(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構	専務理事
(特非)あしよる観光協会	事務局長
(一財)前田一步園財団	自然普及課長
(一財)自然公園財団阿寒湖支部	所長
阿寒湖温泉地区景観協議会	会長
阿寒アイヌ工芸協同組合	代表理事

摩周地域部会構成員

団 体 名	職 名
環境省阿寒摩周国立公園管理事務所	所長
国土交通省北海道開発局	開発連携推進課 開発企画官
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長
国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局	首席運輸企画専門官
林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署	署長
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部 食・観光産業課 参事官
北海道釧路総合振興局	くらし・子育て担当部長
北海道釧路総合振興局	産業振興部長
北海道オホーツク総合振興局	保健環境部 環境生活課長
北海道根室振興局	保健環境部 環境生活課長
北海道環境生活部環境局	生物多様性保全課 自然公園担当課長
美幌町経済部商工観光グループ	観光主幹
清里町企画政策課	課長
小清水町産業課	課長
大空町地域振興課	主幹
標茶町観光商工課	課長
弟子屈町観光商工課	課長
弟子屈町環境生活課	課長
中標津町経済振興課	課長
津別町産業振興課	主幹 課長
(公社)北海道観光振興機構	観光開発支援グループ次長
(一社)摩周湖観光協会	副会長
美幌観光物産協会	事務局長
(特非)きよさと観光協会	事務局長
(一社)小清水町観光協会	事務局長
(特非)オホーツク大空町観光協会	事務局長
標茶町観光協会	事務局長
(一社)なかしべつ観光協会	専務理事
津別観光協会	事務局長
阿寒摩周国立公園川湯地域運営協会	会長
(一財)自然公園財団川湯支部	所長

【令和2年度予算（案） 17,871百万円（16,253百万円）】

【令和元年度補正予算（案） 7,715百万円】

世界水準の「ナショナルパーク」を実現し、国立公園等の保護と利用の好循環により、地域活性化を図ります。

1. 事業目的

- ① 日本の国立公園のブランドイメージを確立し、インバウンドの誘客を促進
- ② インバウンド対策を通じ、外国人とともに日本人も国立公園や国民公園の魅力を満喫できるようにする
- ③ 利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし消費単価や満足度の向上するための施策を実施し、地域に経済効果をもたらし、一層の自然環境の保全への再投資を促進

2. 事業内容

*：国際観光旅客税を活用した事業

平成28年3月に政府（議長：内閣総理大臣）がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置づけられ、**2020年に国立公園訪日外国人利用者数を年間1000万人とする目標を掲げている。****2018年の当該利用者数は約694万人となり、利用者数の更なる増加と受入環境整備の強化、満足度の向上**に向け、国立公園を磨きあげる以下の取組を実施する。合わせて、国民公園の魅力向上を図る。

- ・ **滞在環境の上質化***：利用拠点の滞在環境の上質化、多言語解説の整備・充実
- ・ **魅力あるコンテンツづくり***：アクティビティ等と組み合わせたグラブリング、国立公園ならではの「食」やナイトタイムを生かしたツアー等の造成、野生動物観光の促進。ビジターセンターのインバウンド対応機能強化とデジタル技術を活用した展示促進
- ・ **基盤的な利用施設の整備／長寿命化**：登山道の再整備、キャンプ場リニューアル等
- ・ **受入環境の整備**：ガイド等の人材育成、利用者負担による保全の仕組みづくり等
- ・ **海外への情報発信**：旅行博等への出展、JNTOとの連携によるプロモーション強化*等
- ・ **新宿御苑や京都御苑の魅力向上***：歴史的遺構の整備や体験型コンテンツの造成等

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業／補助事業／交付金
- 請負先 民間事業者・団体／都道府県・市町村
- 実施期間 平成28年度～

4. 事業イメージ



廃屋撤去跡地の新たな民間事業導入、景観整備



くろさきテラス（仮）



（イメージ）デジタル展示
デジタル技術の活用



グラブリングや「食」、文化・歴史等の国立公園の資源活用によるコンテンツづくり



Uni-voiceコードによる多言語解説



アドベンチャーtravel層に向けた
キャンペーン展開（JNTOとの連携）



新宿御苑におけるバック
ヤードツアーの造成

お問合せ先： 環境省自然環境局総務課：03-5521-8672 / 国立公園課：03-5521-8277 / 国立公園利用推進室：03-5521-8271
／自然環境整備課：03-5521-8280 / 野生生物課：03-5521-8282

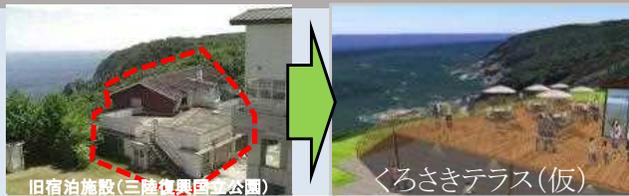
【国際観光旅客税財源】 国立公園のインバウンドに向けた環境整備

令和2年度予算(案)6,862百万円(5,080百万円)

国立公園の磨き上げ

利用拠点の滞在環境の上質化

外国人旅行者の満足度向上、長期滞在促進のため、
 ・地域で策定する利用拠点計画に基づき、廃屋撤去、既存施設のリノベーション、まちなみ改善等、利用拠点の面的な再生を推進



廃屋撤去跡地の新たな民間事業導入、景観整備

・核心的な景観地の利用施設改修を支援



既存施設をインバウンド向けサービス施設へ機能転換

魅力あるコンテンツづくり

・上質な宿泊体験、アクティビティ、食事等を組み合わせた外国人旅行者にとって魅力あるグランピングの推進



・地域独自の自然・文化等のストーリーを伝えることによる、国立公園ならではの「食」等の魅力向上

・野生動物の保護の現場と屋外の野生動物の観察を組み合わせ合わせたストーリー性のあるツアー開発の支援



・国立公園ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しめるナイトタイムコンテンツの造成を支援



国立公園の魅力発信

・デジタルサイネージ等において、アクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供



・【複数泊、高単価】【地域の自然・文化体験】【安全かつ高品質なツアー】の視点を重視したアドベンチャー旅行層に向けたキャンペーン展開(JNTOとの連携により実施)

・国立公園の他地域へ誘導するために、インバウンド利用が多く、効果が期待出来る地区にデジタル展示を導入



国民公園の魅力向上

新宿御苑における取り組み



・武家屋敷、皇室庭園としての歴史・文化を発信
 ・ネイティブ監修によるガイドツアーの造成

京都御苑における取り組み



・総合案内所(閑院宮邸跡)の機能強化や拾翠亭(茶室)利用拡充のための環境整備
 ・AR(拡張現実)による歴史的遺構解説

多言語解説の整備・充実

・全国34国立公園等を対象に、案内板・展示等における英語・中国語等の多言語解説整備を加速



(Uni-voiceコードによる多言語解説) (QRコードによる多言語解説)

阿寒摩周国立公園におけるトレイルネットワークの形成について

■阿寒摩周国立公園ステッププログラム改定（2019年1月）

National Parks of Japan

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム改定（2019年1月）

改定方針

2018年の中間評価を踏まえ、新たな課題への対応、さらなる取り組みを加速化

目標

訪日外国人利用者数 15万人
→関係市町訪日外国人延べ宿泊者数 31万人

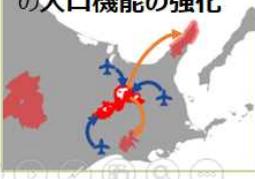
アドベンチャートラベル

取り組みの方針として、**アドベンチャートラベル (AT) ※の推進**を追加

※アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行



加速化する主な取り組み

東北道におけるATの推進	トレイルネットワークの形成	官民連携による利用拠点の再生	利用者目線での施設等の改善
知床、釧路湿原との連携等、東北道のATを満喫するための入口機能の強化	歩いて長期に滞在する旅行を推進するため、 トレイルの充実 等を図る	廃屋撤去、まちなみ景観改善、公共施設の開放等により民間投資の促進	多言語化、動線の明確化など、基本的な施設の 利用者目線での改善 に早急に対応
			

■**トレイル整備・維持管理ガイドライン**
(資料 2 - 2 - 2)

- ・歩道のグレード設定、整備・維持管理に関する考え方、看板・道標のデザインや設置基準等を整理
- ・各主体におけるトレイルの整備・維持管理に反映させ、国立公園として統一感のあるトレイル整備を進める

■**トレイルネットワーク構想**
(資料 2 - 2 - 3)

- ・新規歩道の検討も含め、国立公園内のトレイルのネットワーク化に向けた構想を整理
- ・発展的な取り組みとして、阿寒摩周国立公園を通り、ひがし北海道3空港を結ぶロングトレイルのルート構想を整理

阿寒摩周国立公園トレイル整備・維持管理ガイドライン（案）一部抜粋

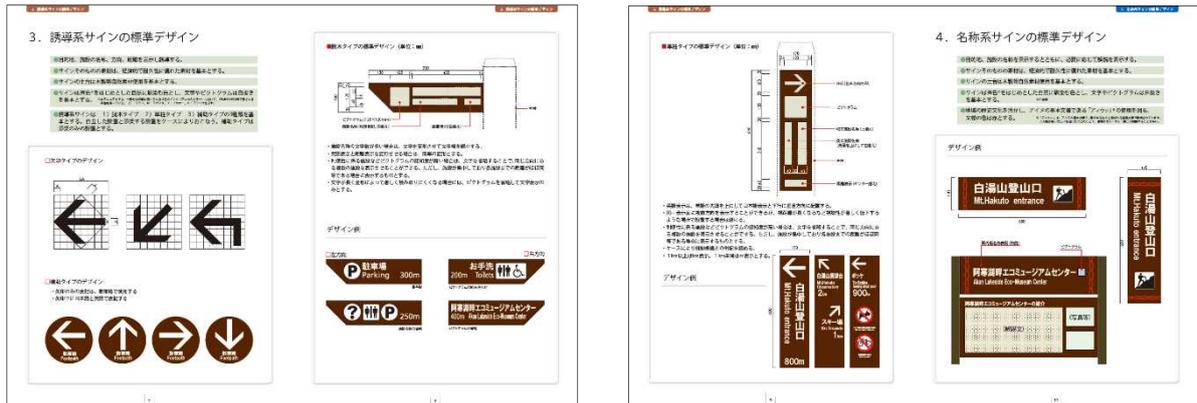
阿寒摩周国立公園のトレイルのグレードの設定

グレード		グレード1 散策	グレード2 軽登山	グレード3 日帰登山 ロングハイク
利用対象		<ul style="list-style-type: none"> ・1時間程度で気軽に自然散策を楽しみたい方 ・ハイキングの経験がほとんどない方 	<ul style="list-style-type: none"> ・半日程度で登山を楽しみたい方 ・多少の登山経験がある方 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日程度で本格的に登山を楽しみたい方 ・1日程度のロングハイクを楽しみたい方 ・登山・ロングハイクの経験がある方
体力的条件	所要時間 (起点までの移動時間含まず)	1時間(60分)程度以下	3時間(180分)程度以下	3～6時間(180～360分)程度
	距離	2km程度	2～6km程度	6km～15km程度
	標高差	平坦～200m程度	200m～300m程度	300m～1000m程度
	ルート定数 (参考値)	5以下程度	5～10程度	10～25程度
必要装備条件		<ul style="list-style-type: none"> ・運動靴 ・歩きやすい服装 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山靴 ・登山の服装 ・飲み物、軽食 ・雨具 	<ul style="list-style-type: none"> ・登山靴 ・登山の服装 ・飲み物、食料 ・雨具 ・防寒具 ・ビバーク装備(非常食等)
ピクト				

ルート定数: コースタイム(時間) × 1.8 + ルート全長(km) × 0.3 + 累計登り標高差(km) × 10.0 + 累計下り標高差(km) × 0.6 (信州山のグレーディング 体力度レベル設定の参考定数計算式)

参考：阿寒自然散策路サインマニュアル

「阿寒自然散策路サイン整備マニュアル」は2011年3月に、「自然公園公共標識の標準表示例」（2010年6月環境省）及び「阿寒湖温泉らしい景観づくりガイドライン」（2011年環境省）との整合性を図りながら、阿寒国立公園（現阿寒摩周国立公園）の主として雌阿寒岳、雄阿寒岳周辺の登山道、遊歩道を対象とし、統一したサイン類の整備のための基本ルールとして、阿寒地域の関係機関の協議のもと策定された。本マニュアルは阿寒国立公園時代に阿寒地域を対象として策定されたものであるが、満喫プロジェクトの取組として、国立公園全体の統一感を出すため、地域協議会（2017年6月）において阿寒地域以外の標識の整備マニュアルとしても取り扱うことが同意された。

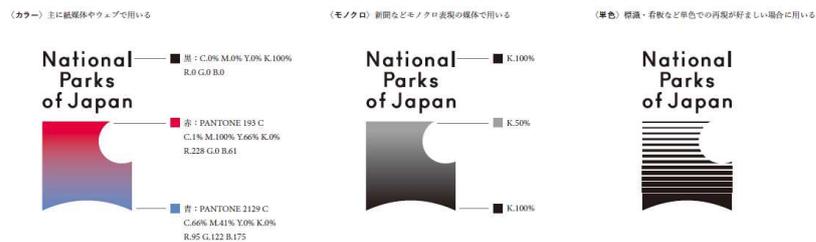


マニュアルの内容

出典：阿寒自然散策路サインマニュアル

参考：国立公園統一マークと国立公園フォント

環境省では、2018年7月に日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図る「国立公園満喫プロジェクト」の一環で、日本の国立公園の持つ価値や魅力を強く発信していくことを目的に国立公園の統一マークを発表、また2019年7月に国立公園に関する情報発信や標記に用いる専用のフォント（日・英）を設定し、標識整備にあたっては、これらマークやフォントを採用していく方針とされた。



国立公園マーク

出典：国立公園の統一マークについて（2018年7月環境省）

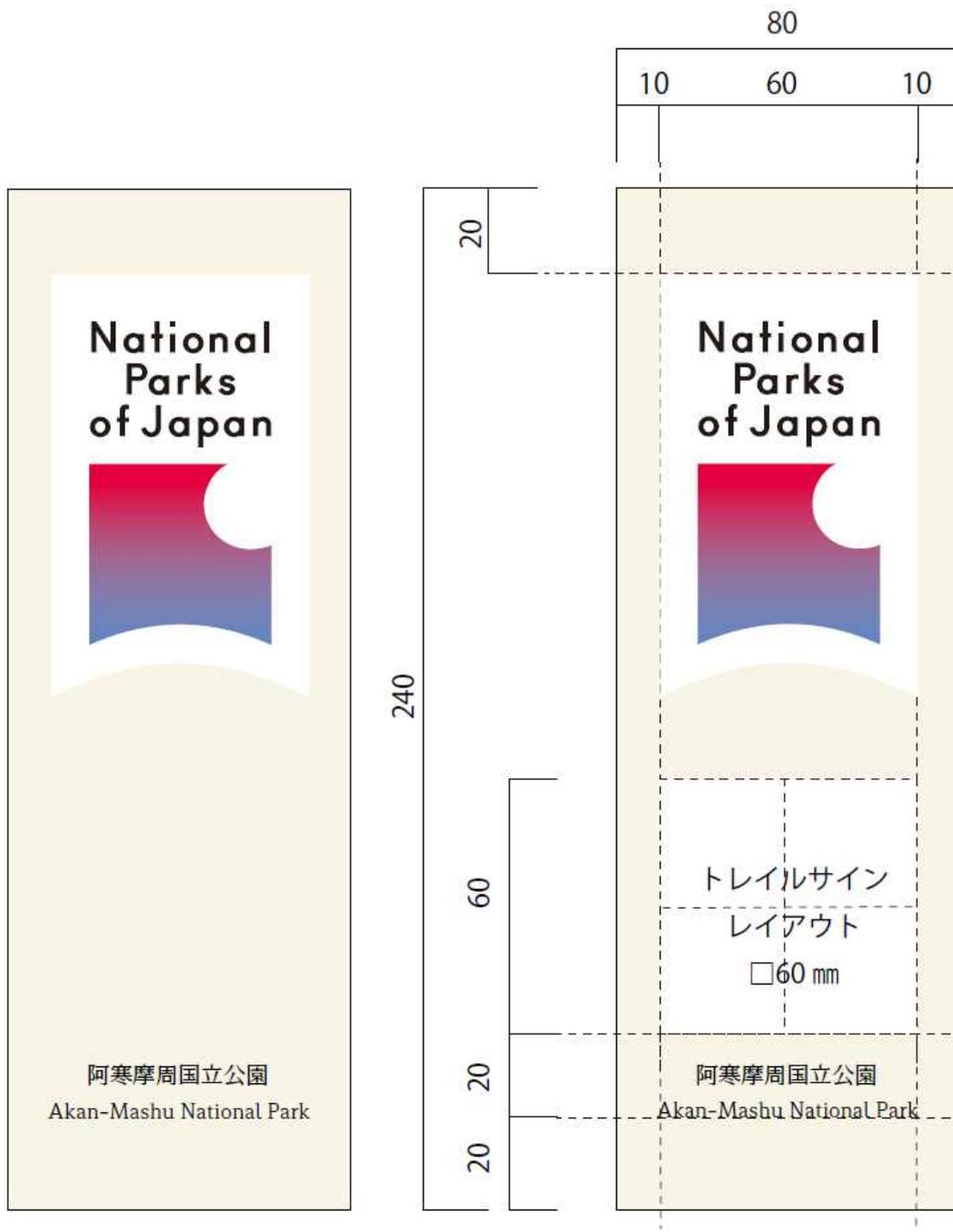
阿寒摩周国立公園
Akan-Mashu National Park

国立公園フォント

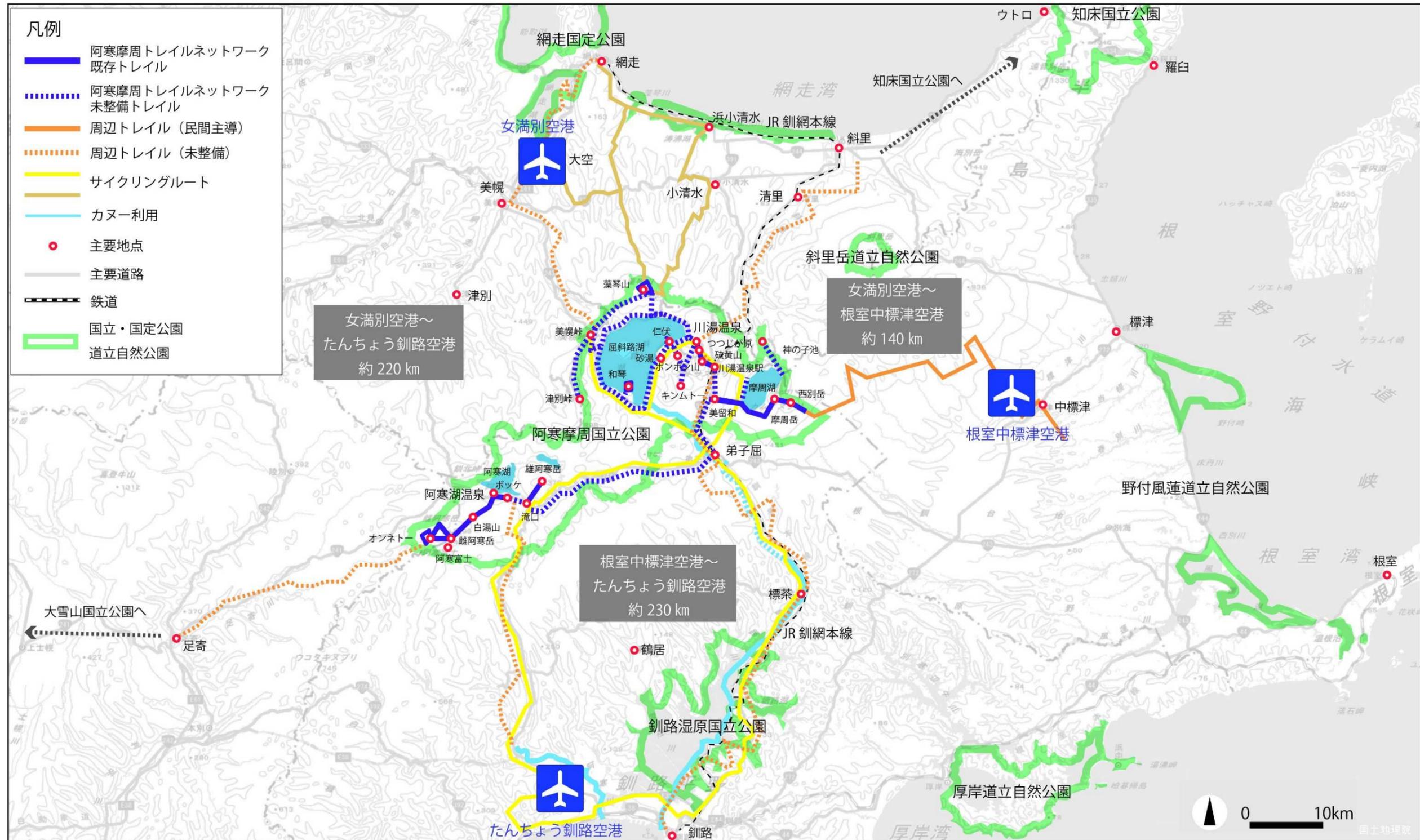
出典：国立公園のブランド強化に向けた国立公園フォントの発表について
（報道発表資料）（2019年7月環境省）

[国立公園・トレイルプレート]

トレイルの一体感、安心感を創出するため、環境省は国立公園マークの入った「国立公園・トレイルプレート」を作成する。事業執行者または歩道管理者は、必要に応じて地域のトレイルサインをこれに貼付する。このプレートについては、既存標識およびトレイル沿いの樹木や構造物等に所有者の許可を得て貼り付け、道標（トレイル利用者を誘導するための誘導標識の補助）としても活用する。樹木への設置は必要最小限に留め、傷つけないように配慮する。



■ ひがし北海道 3 空港を繋ぐロングトレイル構想図 (案)



アドベンチャートラベルの推進について

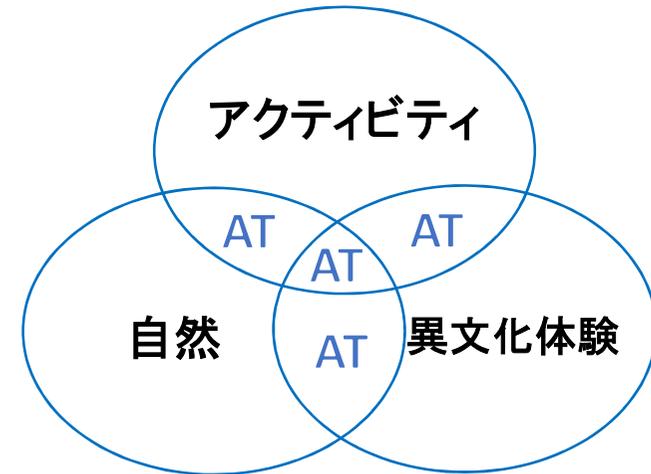
令和2年2月13日
北海道経済部観光局

1 アドベンチャートラベル(AT)とは

【定義】

・**アクティビティ**(身体的活動)、**自然**、**異文化体験**の3要素のうち、**2つ以上**を含む旅行形態

・シーカヤック、ラフティング、トレッキング、山登りといった、海、山、川を活かした様々なアウトドアのアクティビティの総称



- ・欧米を中心に年々拡大している市場規模は**約72兆円**
- ・AT旅行者は、通常旅行者の**2倍**の消費額
- ・本道には、四季を通じて楽しめる多様なアクティビティ、雄大な自然、アイヌや縄文文化などの**コンテンツが豊富**に揃っている

ATの振興

ATガイドの需要増、AT旅行者の入込増
インバウンド500万人に向けた本道観光のレベルアップ

2 アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)の誘致

ATの国際的な団体**ATTA(※)**が主催する**世界最大のATイベント**

- ・旅行会社、メディアなど、**約60カ国**から**約800名**が参加
- ・商談会、セミナー、懇親会、エクスカージョンなどを実施

開催概要

- ・**Pre-Summit Adventure**
(3~5日間のAT体験ツアー(任意参加))
- ・**Day of Adventure**(日帰りAT体験ツアー)
- ・旅行会社等、メディアとの商談会
- ・各種セミナー、ワークショップ など

※ATTA : アドベンチャートラベル・トレードアソシエーション

1990年に設立された世界最大のアドベンチャーツーリズム団体。
各国・地域のメディア、政府観光局、観光協会、DMO、ツアーオペレーター、
アウトドアメーカーなどで構成され、およそ100カ国から1300会員を擁する。

開催効果

- ・**アジア地域初の開催**となり、AT好適地としての北海道を世界に向けてプロモーションする絶好の機会
- ・**海外富裕層**を中心とするAT旅行者の増加による経済効果
- ・800名規模のMICE開催効果

開催実績

欧米を中心に2005年からこれまで15回開催

2017	サルタ(アルゼンチン)
2018	トスカーナ(イタリア)
2019	ヨーテボリ(スウェーデン)
2020	アデレード(オーストラリア)
2021	北海道(日本)※内定

知事公約

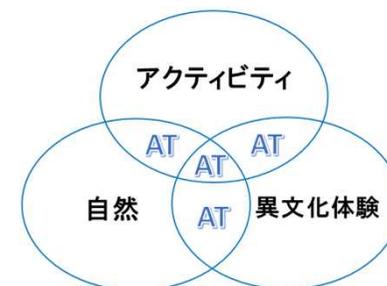
②6さらなる高みを目指した観光戦略の推進

「アドベンチャートラベルワールドサミット2021」誘致を実現し、北海道観光のさらなる魅力を発信します。

3 ガイドの育成について

ガイドの役割が非常に重要なAT

- ・安全安心なアウトドアアクティビティを提供する必要
- ・「異文化体験」という学びの要素を満たすことのできるガイドの博識が求められる



ガイドの課題

- ・北海道には、知事認定アウトドア資格をもつ多数のアウトドアガイドが活動しているが、ATに求められる「文化」や「SDGs」にも配慮・対応できるスキルを持ったガイドは不足
- ・こうしたガイディングスキルを習得できる統一的なカリキュラムがない

(R1) アドベンチャートラベル 受入推進事業	セミナーの実施	アウトドアガイドを主な対象に、ATへの理解促進と受入機運醸成を図るためのセミナーを開催し、裾野の拡大を図る。 【北海道アドベンチャートラベルミーティング】 ・道内5箇所(帯広、釧路、札幌、旭川、函館)で開催。 ・ATTAが提唱する「ATガイド資格&能力基準」、北海道の文化等を学ぶセミナー。
	ガイド育成カリキュラムの作成	ATのガイドに求められる水準や課題を検討し、必要な専門知識を学べるカリキュラムを作成。次年度の研修実施につなげる。

【R2年度事業(予定)】

- ・ガイド育成カリキュラム等を活用し、ATガイド養成研修(仮)を道内数カ所を実施

観光立国ショーケースの取組状況について

令和元年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

令和2年2月13日

釧路市

観光立国ショーケースにおいて目指す姿

欧米豪・アジアの富裕層をターゲットとし、“釧路湿原”“阿寒”の2つの国立公園を有する釧路ならではの観光資源を活用したプレミアムプログラムを提供し、**世界トップクラスの自然**に抱かれながら、アイヌ民族の自然と共生する文化を体感できる世界でも唯一無二の休日「カムイの休日」をゆったりと過ごすことができる観光地域を目指す。

数値目標（実績値と目標値）

項目	2015年 (基準値)	2016年 (実績値)	2017年 (実績値)	2018年 (実績値)	2020年 (目標値)
訪日外国人延べ宿泊客数	142,547人	133,261人	156,300人	160,036人	272,754人
外国人旅行者旅行消費単価	25,000円	22,879円	20,117円	20,263円	27,000円
外国人旅行者来訪者満足度	20.0%	20.2%	23.8%	34.7%	22.0%
外国人旅行者リピーター率	20.0%	24.8%	20.4%	19.7%	22.0%

数値目標
に対する
評価

観光資源の磨き上げとストレスフリー環境の整備を中心的に進めてきているが、ゴールデンルートや道央圏からの誘客には、二次交通への対応や釧路市だけではなく、「ひがし北海道」という広域視点での周遊プランとして、周辺自治体とも連携し、今後さらに取り組みを加速していく。

観光資源の磨き上げ

デジタルアートを活用したアイヌ古式舞踊プログラムの開発

活用した支援事業名：地域文化資源活用空間創出事業（経済産業省）

阿寒湖畔の夜間の観光資源の磨き上げとして、**著名なクリエイターとの連携やデジタルアート技術の導入**により、アイヌ古式舞踊プログラムのリニューアルを実施。プログラムの磨き上げに伴い、**入場料を値上げし、高付加価値化を図った。**



撮影：ヨシダナギ



国立公園内での開催は世界初となるナイトウォークが体験できるプログラムの開発

活用した支援事業名：地方創生推進交付金（内閣府）

デジタルアートの分野で世界的に著名な企業と連携し、アイヌのユーカラ（叙事詩）をベースに、夜の森を舞台としてアイヌ文化を体感できるアクティビティを開発。**新たな滞在型コンテンツの創出**により、**総体的な入込客数の増加が図られた。**



© Moment Factory



受入環境整備

釧路湿原国立公園における多言語解説の整備

活用した支援事業名：地域観光資源の多言語解説整備支援事業（観光庁）

釧路湿原国立公園内の多言語解説の充実を図るため、湿原観光の拠点施設である釧路市湿原展望台の館内展示物について**ネイティブライターによる多言語解説文を作成**。作成した多言語解説をもとに、**外国人の館内利用時に貸与する「展示物英語案内シート」を作成し、多言語解説の充実を図った。**



世界とつながる新規航空路線の開設

釧路空港と**海外からのゲートウェイとなる関西国際空港間**に道東初となるLCC定期便の新規航空路線を開設。就航1年で搭乗者数10万人を突破し、インバウンドや関西圏からの**新たな誘客が図られた。**



海外への情報発信

アドベンチャートラベル市場に対する情報発信

活用した支援事業名：地方連携事業（観光庁）

アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット(ATWS)に2016年から毎年出展し、アドベンチャートラベル市場に対し継続的な情報発信を行うとともに、世界最大級のアドベンチャートラベル団体であるATTAの役員を招聘し、FAMトリップ、ネットワーキングを実施。



地方自治体初の8K映像による動画プロモーション

活用した支援事業名：地方創生推進交付金（内閣府）

自然、食、文化をはじめとする**夏期の観光資源を紹介する動画を8K映像で撮影し、YouTube上で動画広告として配信**。6カ国および地域（米・仏・台・香・韓・マレー）に対してインストリーム広告を展開し、14日間で約700万回の再生回数、うち3市場で「来訪意向」が上昇する評価を得た。



最終年に向けた取組における柱（重点項目）

これまでの取組の総括

アドベンチャートラベルに関心の高い欧米豪の富裕層の獲得に向け、DMCの組織化やツアーサービス内容の磨き上げを行うとともに、夜間の観光コンテンツの充実やストレスフリーの環境整備について、DMOと連携した取組を進めてきた。

釧路市の強み

本物の大自然、それを体感できるアクティビティ、そしてアイヌ文化に代表される独特の文化があり、欧米を中心に市場が拡大している「アドベンチャーツーリズム」の3要件を満たした地域資源を有している。

主な課題

課題①コンテンツ：滞在時間を伸ばす観光コンテンツが不足しており、来訪者の滞在・延泊の促進に十分結びついていない。

課題②受入環境：ストレスフリーエリアにおけるWi-Fiやキャッシュレス決済の導入が十分に進んでいない。

課題③プロモーション：各ターゲット国のニーズを調査し、そのニーズに対応するコンテンツやサービスに関する情報発信を行っていく必要がある。

最終年に向けた取組における柱（重点項目）

- 磨き上げた観光資源を最大限活用し、アドベンチャーツーリズムの具体的な商品販売を開始するとともに、国立公園の夜の森を舞台としたデジタルアートプログラムや幣舞橋周辺の飲食店と連携した食のコンテンツ等、**地域資源を活かした夜の観光コンテンツによる更なる誘客を目指す**。また、調査型FAMトリップ等により国別の詳細なニーズ把握を行い、着地型旅行商品への即座な反映など即効性を持ったサービス展開を行う。
- 釧路市街地や阿寒湖温泉エリアのストレスフリーエリアにおいて、**面的なWi-Fiサービスの提供を行うとともに、店舗におけるQR決済の導入を推進し**、訪日外国人観光客が周遊しやすい環境を整備する。
- ターゲット国（特に東アジア圏）に対して、上記コンテンツの具体的なサービス内容に関するデジタルプロモーションを強化するとともに、2021年のワールドサミット北海道開催を見据え、引き続きアドベンチャートラベル市場に対する情報発信を行う。

①-1 交通シームレス化の在り方に関する調査事業

現状・課題

- 訪日外国人観光客の急速な増加に対応した公共交通の受入環境整備が十分追いついていない。
- 各地域の乗継拠点について、バス等2次交通の異なるモード間のダイヤ調整はされておらず、最適化されていない。
- 鉄道・空港等旅行者の乗継拠点における交通ネットワークに関する情報発信が十分でない。
- 現金決済が主流のため、ICカード、電子マネー等の決済手段が遅れている。
- 異なるモード間を横断した一元的な予約ができない。
- 空港民営化を控え、空港と鉄道と2次交通を組み合わせた広域観光圏の整備が求められている。

対応

- 道内主要空港及び主要鉄道駅からのバスをはじめとする2次交通の充実、受入環境の整備
- 利用者の視点に立ったシームレスな目的地までの移動手段の確保

STEP1：阿寒湖エリア（JR釧路駅、釧路空港からの2次交通ネットワーク整備）によるモデル展開（令和元年度調査実施中）

- 関係者間で検討委員会を立ち上げ、地域の交通ネットワークについて検証・議論

- ダイヤ等の最適化の検討
- 各モード間の接続強化の検討
- 適切な情報発信の検討等

シームレスなネットワーク構築

- ダイヤ等の調整・最適化
- 各モード間の接続強化
- 適切な情報発信

（検討会の構成員）

有識者、地方公共団体、交通事業者、観光関係者、空港関係者、宿泊事業者等

交通結節点の環境整備

- 交通結節点のバリアフリー化・多言語標記化
- バス待合環境の整備拡大
- バスロケーションシステムの導入

次世代の輸送システムの導入

- MaaSを活用したスムーズな事前予約・決済の実現

キャッシュレス化

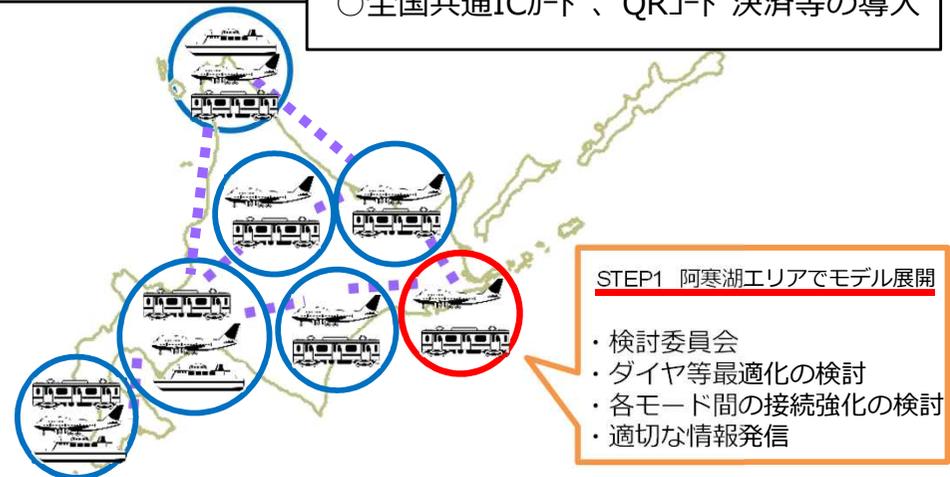
- 全国共通ICカード、QRコード決済等の導入

STEP2：モデル拠点の拡大（令和2年度以降）

- STEP1のフィードバックを踏まえたモデル拠点の拡大
- 拠点を軸とした2次交通ネットワークの検証及びダイヤ等の最適化
- MaaSを活用したスムーズな予約、決済等モード間の連携の検討
- 交通情報など適切な情報発信

STEP3：拠点間連携を含めたシームレス化（令和2年度以降）

- MaaSを活用し各モード間の連携
- 拠点間連携の課題整理、解決策の検討、目的地までの移動手段のシームレス化



①-2 交通シームレス化の在り方に関する調査事業 / 経過

▶ 第1回検討会 / 概要 (令和元年7月2日、ニュー阿寒ホテル)

■ 現状の交通の問題点 (抜粋)

《釧路空港 ~ 阿寒湖》

- ・阿寒エアポートライナーと阿寒線が運行しており乗継が可能であるが、待ち時間が“長い便”“短すぎる便”もある。
- ・飛行機の便数に対して、利用可能な路線バスの便数が不足している。

《JR釧路駅 ~ 阿寒湖》

- ・バス・JR間で、シームレスな乗継が実現できていないものもある。

※ 阿寒湖を結節点としながら、釧路空港を含む道東5空港やJR駅との乗継のシームレス化を図り、地域住民と観光客の双方にとって利便性の高い交通網の形成を目指す。

■ まとめ

- ・MaaSについては北海道内でも色々な動きが出てきており、進めていくにあたっては他の動きも取り入れながら幅広い視野で取り組んでいければ。
- ・地域交通にとって大事なのは、利用者が本当に分かりやすい交通というのが展開されていることであり、そちらのほうの議論も心掛けていきたい。

▶ 交通事業者部会 / 概要 (令和元年11月22日、釧路運輸支局)

■ 調査結果からの課題 (抜粋)

《住民の移動利便性確保》

- ・阿寒本町地区 / 阿寒湖温泉地区と釧路市街地のアクセス手段確保
- ・空港、JR、バスセンター等との結節強化

《旅行者移動利便性向上》

- ・旅行者属性・道内流動ニーズに応じた二次交通網の形成
- ・交通機関における「旅前予約・決済」ニーズへの対応
- ・観光情報等の強化

「ハード面」「ソフト面」相互におけるシームレス化が必要

■ ロードマップ作成に向けた論点

- ・2次交通は「乗継利便」よりも「情報発信」が重要。(現状は自治体・交通事業者でそれぞれから発信)
- ・生活を重視すると観光が、観光を重視すると生活が不十分となる恐れがある。主体は観光戦略ではあるが、結果的に市民生活に寄与するため、わかりやすく整理すべき。
- ・荷物の取扱いが悩ましい。(中国人は安全重視で預ける習慣がない)
- ・大手観光検索サイトに交通情報が足りていない。

▶ 第2回検討会 & MaaS勉強会 / 概要 (令和元年12月25日、釧路市交流プラザさいわい)

■ ロードマップにおける施策方向性の提示

- ・“生活路線としての役割”と“観光戦略の二次交通としての役割”の共存
- ・事業採算性 (地域全体でシステム構築し、各事業者が儲かる仕組み作り)

■ MaaS勉強会

「観光産業から捉えたMaaSとは」

講師) JTBコミュニケーションデザイン・黒岩隆之氏

▶ 第3回検討会 / 予定 (令和2年3月3日、場所未定 (阿寒湖エリア))

② 持続可能な観光の推進に関する実証事業

- 観光地が長きにわたって旅行者を受け入れていくためには、経済・社会・文化・環境等の様々な観点から十分配慮された持続可能な観光となっているかが重要とされており、G20観光大臣会合をはじめとした国際会議においても主要なテーマとなっている。
- 北海道内においても、持続可能な観光への関心が高まっているが、具体的な取組方法がわからず、対応に苦慮している。

事業実施地域における背景・課題

- 広域的課題** 持続可能な観光に対する取組について、北海道内で十分に浸透していない。
- 地域的課題**
 - ・持続可能な観光の国際基準が浸透していない
 - ・持続可能な観光の地域意識の醸成が必要
 - ・持続可能な観光の取組に対するプロセス

事業概要

<事業主体> 北海道運輸局、釧路市、阿寒観光協会まちづくり推進機構、環境省釧路自然環境事務所、鶴雅リゾート(株)アドベンチャー事業部

<実施期間> 令和元年11月～令和2年2月

<取組概要>

●GSTCトレーニングプログラムの実施

- ・GSTCが定める国際基準の学習
- ・GSTC認証を受けるために必要な事項の整理

GSTC=Global Sustainable Tourism Council
(グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会)
UNWTOを含む約30の国際機関等から構成される組織、持続可能な観光に関する基準を策定。

●ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業

- ・給水スポットの設置
- ・マイボトル販売促進

●セミナーの開催

- ・持続可能な観光地域づくりの必要性の理解、実際のプロセスを紹介



事業実施状況

●GSTCトレーニングプログラム開催

開催 令和元年11月5日(火)～7日(木)
場所 阿寒湖まりむ館
講師 荒井一洋氏 (GSTC公認トレーナー)
参加 18名 (釧路市8名、弟子屈町8名、環境省2名)



●ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業

> 給水スポットの設置 (7箇所)

内容 給水スポットを選定し、案内表示POPを設置

【設置場所】

- ①阿寒湖まりむ館、②阿寒湖アイスアター「いっ」、③阿寒湖バスセンター、④阿寒湖畔コミュニティセンター、⑤阿寒湖畔キャンプ場、⑥(財)自然公園財団第1駐車場、⑦(財)自然公園財団第2駐車場 (※④～⑦は令和2年5月より開始)

- ・ローソン阿寒湖温泉店、阿寒湖温泉4丁目店に給水スポットMAPを設置
- ・Refill My Bottleアプリ、My Mizeアプリを活用した給水スポットの周知



> マイボトル販売促進

内容「試飲体験イベント」の開催

開催 令和2年2月1日(土)～2日(日)

場所 阿寒湖まりむ館

参加 20名 (中国12、インドネシア2、フランス2、他4)

- ・猛禽類医学研究所とサーモス(THERMOS)がコラボレーションしたマイボトルの販売(販売場所：阿寒湖まりむ館)

●セミナーの開催

内容「持続可能な観光地域づくり in 札幌」の開催

開催 令和2年2月18日(火) 13:30～17:00

会場 かでる2.7 710会議室 (7階)

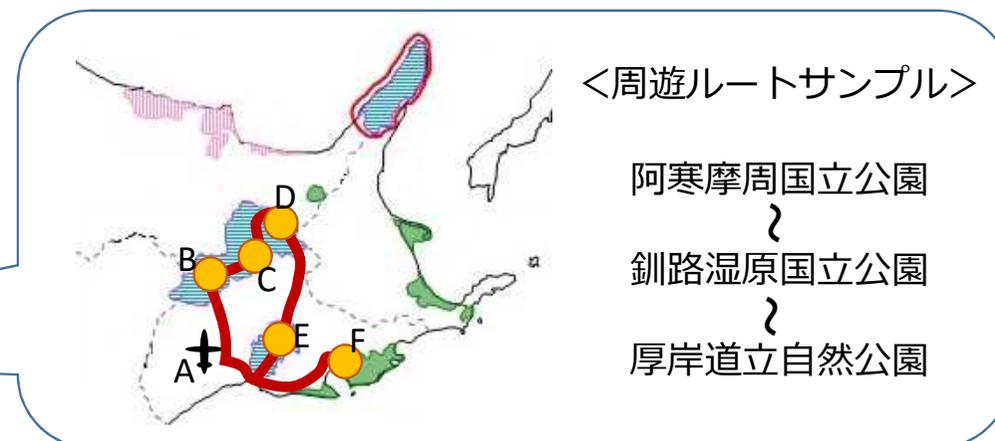
定員 80名



東京2020オリンピック競技大会札幌開催に合わせた自然公園の利用促進に向けた取組について

2020.2.13 / 北海道環境生活部環境局生物多様性保全課

NATURE PARKS IN HOKKAIDO



【概要】東京五輪2020札幌開催で、来道するインバウンドが増加する機会を捉え、インバウンドを自然公園に誘い、北海道の最大の魅力のひとつである自然、生物多様性を体感してもらうことにより、自然公園利用者の増加を促進する。

【事業内容】特徴的な資質を持つ自然公園をいくつかつなぎ、北海道の自然が体感できる一連の周遊ルートとして調整し、全道の様々な自然公園の紹介と共に、空港等でプロモーションを展開する。周遊ルートは、阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトの道東と、札幌近郊の2本を想定。

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2020の目標達成状況

資料3-1

目標の達成状況



■ 地域別訪日外国人宿泊者数（人泊）の比較

	2015年度	2018年度	伸び率
アジア	152,846	168,781	110.4%
欧米豪	6,842	10,391	151.9%
その他	3,572	11,516	322.4%
計	163,260	190,688	116.8%

各種指標に関する分析

- ・訪日外国人延べ宿泊者数は年々増加傾向
- ・増加率については、アジアよりも欧米豪その他の旅行者が高いことが特徴的
- ・利用者数推計値及び消費額、宿泊数等の質に関する指標については、数字上減少傾向となっているが、サンプル数が少ないため参考程度

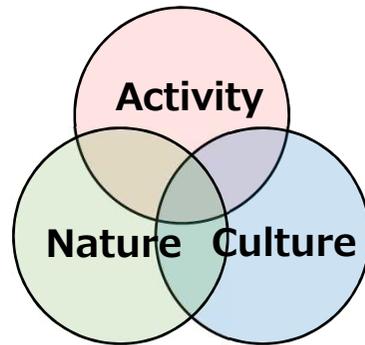
■ 質に関する指標

	2016年度	2017年度	2018年度	
支出額 (国立公園)		93,449	75,411	(円)
(水のカムイ) 宿泊数 (公園内)	72,526	68,196	58,155	(円)
(公園周辺含)		1.8	1.6	(泊)
リピーター率		5.4	4.2	(泊)
		5.1	14.8	(%)

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019年度までに成果の見られた主な取組

① アドベンチャートラベル（AT）の推進

- ・アドベンチャー・トラベラーを重要なターゲットとして位置づけ、体験・滞在型旅行であるATを北海道の新たなブランドとして定着させる。
- ・積極的な誘致の展開により、ATWS（Adventure Travel World Summit）の2021年北海道開催が内定



② 国立公園の新たな活用

- ・これまで未利用だった国立公園の資源やエリアについて、自然環境の保全も踏まえた新たな活用が進んだ。



③ 民間投資の促進

- ・国立公園満喫プロジェクトを契機として、地域内外からの新たな民間投資を促し、地域の活性化に向けた取組が進んだ



④ 快適な公共空間の整備

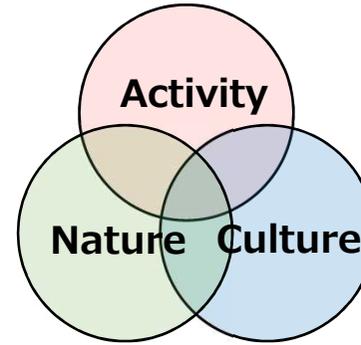
- ・多くの旅行者が利用する国立公園内のビジターセンター、園地、トイレ等の公共施設について、ストレスのない快適な利用が出来るよう再整備、多言語対応等を行った。



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019年度までに成果の見られた主な取組

① アドベンチャートラベル（AT）の推進

- ・アドベンチャー・トラベラーを重要なターゲットとして位置づけ、体験・滞在型旅行であるATを北海道の新たなブランドとして定着させる。
- ・積極的な誘致の展開により、ATWS（Adventure Travel World Summit）の2021年北海道開催が内定



2017

ATWS2017
サルタ（アルゼンチン）
関係者 12名参加

- ・6月に「**北海道アドベンチャートラベル協議会**（事務局：北海道運輸局）」が設立
- ・9月にAT関係者とのネットワークを図る第1回**Adventure Connect**を札幌市で開催
- ・9月に地域関係者がATについて学ぶ**Adventure EDU**を釧路市で開催

2018

ATWS2018
トスカーナ（イタリア）
関係者 15名参加

- ・4月、**阿寒アドベンチャーツーリズム（株）**が設立
- ・阿寒地域におけるAT拠点として、民間ホテル内にアクティビティカウンターが開設（**鶴雅アドベンチャーベース <SIRI>**）
- ・5月に北海道経済産業局が道東エリアをモデルとした「**地域ATマーケティング戦略**」を策定
- ・9月に第2回**Adventure Connect**を札幌市で開催

2019

ATWS2019
ヨーテボリ（スウェーデン）
関係者 39名参加

- ・2月にAT関係者を多数招聘する大型のFAMツアーである**AdventureWeek**を開催
- ・5月、北海道知事をはじめ、北海道運輸局長、北海道経済産業局長、北海道観光振興機構会長、札幌市長、釧路市長などが**ATTAシャノン・ストーウェルCEO**に対し**ATWS2021の北海道誘致の意向を伝達**（観光庁長官、JNTO理事長も同席）

ATWS
2021
北海道
開催

・2020年1月に内定

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019年度までに成果の見られた主な取組

② 国立公園の新たな活用

これまで未利用だった国立公園の資源やエリアについて、自然環境の保全も踏まえた新たな活用を推進した

<主な成果の例>



2019年7月より、阿寒湖畔ポツケ遊歩道を活用し、アイヌの物語から自然との共生の大切さを伝える、夜のデジタルアートプログラム「カムイルミナ」が開始（約3万4千人が参加）



2019年10月より、入山禁止となっていたアトサヌプリにおいて、ガイド付き限定のトレッキングツアーが開始



2019年6月より、裏摩周展望台から神の子池までのガイド付きトレイルを開始（今後MTBコースとしても検討）

<その他の成果>

- ・マリモ学習ツアーについて関係者間で議論し、実施内容及び体制を検討中（2020年実施予定）
- ・阿寒湖南岸を歩き滝口までつなぐ新たな歩道（滝口線）を整備（2020年度一部区間供用開始予定）
- ・美幌地区三町広域観光協議会が屈斜路湖外輪山のトレイル（藻琴山～美幌峠～津別峠）を検討

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019年度までに成果の見られた主な取組

③民間投資の促進

国立公園満喫プロジェクトを契機として、地域内外からの新たな民間投資を促し、地域の活性化に向けた取組が進んだ

川湯EMCの民間カフェ導入



2019年8月より、川湯EMCの2階に設置したカフェスペースで公募により選定した民間事業者が営業開始



川湯温泉廃屋撤去後の跡地活用

2019年11月より川湯温泉街の廃屋撤去に着手し、地域の民間事業者等による跡地活用を検討中

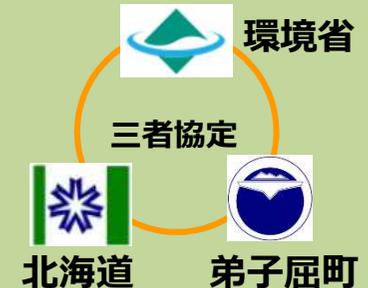


公設野営場の民間活用 (グランピング等)

2018年、2019年に和琴野営場において、民間事業者と連携し、閑散期の有効活用方策の検討としてグランピングを試行
※利用者数81人 (R1)



環境省、北海道、弟子屈町で連携協定を締結し、2020年度より弟子屈町内の公設野営場を民間事業者により一括運営



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2021年度以降の取組方針

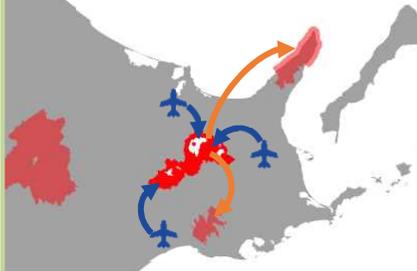
2021年度以降 の取組方針

- ・2021年のATWS北海道開催を見据え、**アドベンチャートラベルを主要なターゲット**と定め、**消費額の向上、滞在日数の延長等**につながる取り組みを重点化
- ・SDGsの推進を踏まえ、アイヌ文化をはじめとした世界に誇る自然との共生の文化を発信する拠点として**持続可能な観光地として国立公園のブランド化**を図る
- ・2019年1月に改定したステップアッププログラムで新たに掲げた「加速化する主な取り組み」をさらに発展的に展開していく

2021年度以降さらに展開する主な取り組み

ひがし北海道における ATの玄関口

知床、釧路湿原との連携等、ひがし北海道におけるATを満喫するための**入口としての機能を強化**



トレイルネットワークの 形成

歩いて長期に滞在する旅行を推進するため、トレイルの整備など**移動しながら楽しめるアクティビティの充実**等を図る



官民連携による 新たな活用の促進

廃屋撤去、公共施設の開放等により**民間投資を促進**
また、**持続可能な仕組みを前提とした官民連携による新たな活用**を検討



利用者目線での施設 等の改善

多言語化、動線の明確化など、基本的な施設の**利用者目線での改善**に引き続き対応



阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 令和3(2021)年度以降の取組継続について(案)

資料3-2

阿寒摩周国立公園は、国立公園満喫プロジェクトの事業実施個所として、平成 28(2016)年7月に全国8カ所の国立公園のひとつとして選定され、以来、ステップアッププログラムに基づき、「火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する」ことをコンセプトに、様々な関係機関、団体が実施主体として取組を進めてきました。

これまでの取組で、アドベンチャートラベル推進のほか、未利用の資源やエリアの保全を踏まえた活用、新たな民間投資促進による多様なサービス提供、快適な公共空間の整備が進み、世界水準のナショナルパークに向けて着実に前進していますが、目標設定年の令和2(2020)年は、まだ中間点です。

平成 30(2018)年度に実施した中間評価を踏まえ新たに加速化することとした取組のうち、アドベンチャートラベルについては、令和3(2021)年のワールドサミット北海道開催を見据え、東北道の3つの国立公園をはじめとする雄大な自然のフィールド間の連携を深めていくことが重要であり、地理的に中央に位置する阿寒摩周国立公園では東北道の玄関口としての機能強化が必要です。

中間評価以降に着手したトレイルネットワークの形成は、国立公園だけでなく周辺地域も含めてつないでいくことで優れた自然環境を基盤とする農業などの人の暮らしにもふれることができ、東北道全体の長期滞在の推進や旅行者の満足度向上につながることを期待され、継続的に取り組むことが必要です。また、満喫プロジェクトを契機に阿寒摩周国立公園への民間事業者の投資や官民連携の取組が進み、地域の活性化に対しても大きな効果がありましたが、今後さらに、国立公園の資源を活用した事業の収益の一部を保全管理に還元する持続可能な観光地づくりを目指していく必要があります。

国立公園満喫プロジェクト有識者会議においては、選択と集中により世界に誇れる国立公園を実現させていくことが重要という議論がなされていると認識しています。阿寒摩周国立公園は、国立公園満喫プロジェクト選定8公園の中でも、特に原生的な自然を有する国立公園であり、北海道の先住民族であるアイヌの人々の伝統と文化に触れることができるという他にはない特徴を有しています。こうした特徴は、人の暮らしと共にあるという日本の国立公園のストーリーを世界に伝える上で、非常に重要な役割を果たすと考えられます。

阿寒摩周国立公園におけるこれまでの取組の進捗や今後の展望、資源の特殊性等を踏まえると、将来的な可能性を大いに有するこの地域において引き続き集中的な取組を行うことが、世界水準のナショナルパークの実現に向けて効果的かつ効率的であると考えられます。

以上のことから、阿寒摩周国立公園において令和3(2021)年以降も、国立公園満喫プロジェクトを契機に開始した取組をさらに発展させていくため、国においても引き続き同プロジェクトによる取組を継続し、地域と共に進んでいくことを提案いたします。

令和2(2020)年2月13日

北海道	釧路市	美幌町
津別町	清里町	小清水町
大空町	足寄町	標茶町
弟子屈町	白糠町	中標津町
公益社団法人	北海道観光振興機構	
阿寒摩周国立公園広域観光協議会		
特別非営利活動法人	阿寒観光協会まちづくり推進機構	
一般社団法人	摩周湖観光協会	
一般財団法人	前田一步園財団	
一般財団法人	自然公園財団	

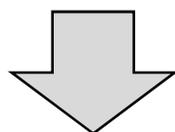
阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
令和元年度開催状況および今後の予定

令和元（2019）年10月10日

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
阿寒地域・摩周地域部会合同開催

- ・国立公園満喫プロジェクト有識者会議の報告
- ・ステップアッププログラム進捗状況の確認

開催地 … 弟子屈町 川湯観光ホテル

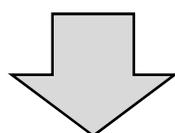


令和2（2020）年2月13日

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会開催

- ・2019年までの取組状況と成果、課題の整理（とりまとめ）
- ・来年度（2020年度）以降の取組について

開催地 … 釧路市阿寒湖 鶴雅ウイングス



令和2（2020）年度の予定

令和2（2020）年10月

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
阿寒地域・摩周地域部会合同

開催地 … 釧路市阿寒湖

令和3（2021）年1月～3月

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

開催地 … 弟子屈町

国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組の方向性検討について

参考資料 1

ねらい

- 目標まで1年半となる中で、**従来からの取組を着実に実施**するとともに、2021年以降の取組方針について、2019年度～2020年度初めにかけて議論をし、方向性をある程度定めておくことで、**2021年当初からも切れ目なく取組が実施できるようにすることが重要**。
- 2019年までの取組状況や成果、それを踏まえた課題や2021年以降に取り組むべき事を整理し、**有識者よりアドバイスをいただきながら、2021年以降の取組の方向性を検討**する。

検討の流れ・スケジュール（案）

2019年度	9月：2021年以降の方向性の検討の流れ、主なポイントにかかる意見交換（第11回会議） ↓ 2019年までの取組状況と成果、課題の整理（テーマ別・8公園別に実施） ↓ 年度末：2021年以降の取組方針の議論①（第12回会議）	第14回以降 有識者会議 を開催予定
2020年度	春：2021年以降の取組方針の議論②（第13回会議・中間報告） ↓ プロジェクト全体の取組状況と成果とりまとめ ↓ 年度末：2021年以降の取組方針のとりまとめ 2020年目標に対する結果（訪日外国人国立公園利用者数）、最終評価	

方向性検討にあたって意見をいただきたいポイント

- **取組成果の評価指標**
 - ▶ ◆ 2021年以降、国立公園において目指すさらなる高みとは
 - ▶ ◆ 高みを目指す上での指標
- **プロジェクト推進のための枠組み**
 - ▶ ◆ 先行的、集中的に取り組んできた8公園の役割・継続して行うべきこと
 - ▶ ◆ +3公園を含めた国立公園全体で取り組むべきこと
- **2021年以降プロジェクトで追加すべきこと・取り組むべきこと**